

耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちは。立春間近とは言え、冬真っ盛りです。寒い日が続きます。くれぐれもご自愛ください。

かわら版では日常会話の中に含まれている仏教用語をご紹介します。知らず知らずのうちに使っている仏教用語。それだけ日本人の生活に溶け込んでいるということなのです。

日本には古来、修験道の世界があります。修験道の修行者は山伏の格好をして山岳修行をします。一般の人が参加できる「体験コース」もありますよ。

修行中、山道を歩く際には「ごんげ、ごんげ、六根清浄(ろっこんしようじょう)」と唱えますが、この「ごんげ」は「懺悔」と書く仏教用語です。

「懺悔」と聞くとキリスト教を思い浮かべる人も多いと思いますが、キリスト教では許しを請う儀式は「告解」「告白」「悔悛」であり、「懺悔」とは言わないそうです。

皆さん、こんにちは。立春間近とは言え、冬真っ盛りです。寒い日が続きます。くれぐれもご自愛ください。

「懺悔」と読み、罪を告白して「ごんげ」と読み、罪を告白して仏様に許してもらおうことです。他の宗教にも同じような行為がありますが、仏教の「懺悔」は日常用語として浸透しています。

「懺悔文(さんげもん)」とは、自分の犯した罪や過ちを仏様に告白して、悔い改める言葉です。「懺悔文」を唱えたり写経したりして「懺悔」します。

有名な「懺悔文」が「略懺悔」であり、次の七言四句の「偈文(げもん)」です。「偈文」はお経を唱える前に読むものであり、お寺の法要で聞いたことがある人も多いと思います。

「我昔所造諸悪行(がしやくしよぞうしよあくごう)」「皆由無始貪瞋癡(かいゆうむしとんじんち)」「従身口意之所生(じゅうしんくういししよしやう)」「一切我今皆懺悔(いっさいがこんかいさんげ)」の七言四句です。意味は次のとおりです。

私は昔からたくさんの悪いことをしてきました。そのすべてが「貪(どん)」「瞋(しん)」「癡(ち)」によるものです。いつの間にか「むさぼり」「怒り」「愚かさ」によって悪い行いをし、悪態をつき、迷いが生じ、悪が積み重なっています。今、それら全てのことを懺悔します。

この七言四句、暗記して自然に口から出るようになる、心穏やかになれるそうですね。

「懺法(せんぼう)」「悔過(けか)」という儀式があります。自ら知らず知らずのうち行った諸悪を懺悔して、お互いの心の中にある「むさぼり」「怒り」「愚かさ」の三毒を取り除き、自分の心を静め清らかにする儀式です。中世には宮中行事として行われていたそうです。

ほかに「布薩(ふさつ)」「自恣(じし)」という儀式もあります。「布薩」は半月ごとに集まって、「自恣」は夏安居(げあんご)の終りの日に集まって、罪を告白し、互いに批判し、戒を唱えて罪障を数え、赦しを受けます。

七言四句を唱えるのは大変ですが、「ごんげ、ごんげ、六根清浄」は覚えられそうです。いや、安きに流れるこの怠け心も「懺悔」ですね。ではまた来月。

※



豊田 中日文化センター

仏教にふれて 心穏やかに生きる

「仏教にふれて心穏やかに生きる」の第2弾です。良いこともあれば、悪いこともあるのが人生です。楽しい時もあれば、辛い時もあります。今から2500年前のお釈迦さまに始まった仏教は、私たちに「何か」を教えてくれています。「どこか」に導いてくれています。過去6回も振り返りながら、いくつかの話題からその「何か」と「どこか」を考えます。

第7回 1月14日(日) 13:30-15:00

「葛藤」のない生き方

第8回 2月11日(日) 13:30-15:00

「自業自得」の生き方

第9回 3月10日(日) 13:30-15:00

生きることの「不思議」



※お申し込み・詳細は豊田中日文化センターまでお問合せください。右のQRコードから豊田中日文化センター講座HPが開きます。



大塚耕平事務所 かわら版担当: あさい
TEL 052 757 1955

